

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 30 年 6 月 4 日現在

機関番号：24506

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2015～2017

課題番号：15K03520

研究課題名(和文)介護労働市場における既婚女性の労働力化の促進に関する計量経済学的研究

研究課題名(英文) Econometric analysis of female workforce participation in long-term care worker market

研究代表者

車井 浩子 (KURUMAI, HIROKO)

兵庫県立大学・経営学部・教授

研究者番号：70275296

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,600,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、介護労働市場における女性の労働力化の推進のために、介護の現場で働く女性労働者の現状に関する研究を行った。介護職、及び看護職に従事する男女労働者を対象に大規模なインターネット調査を行い、アンケート結果に基づき、就業を継続する上で重要であると思われる就業意識に関する分析を行った。その結果、仕事内容の違いに加えて、婚姻状態や職業選択の際の意思が就業意識に影響を与えていることが示唆された。さらに子供の有無等詳細な属性を考慮した研究を続けており、介護労働市場における女性労働者の内発的動機を高め、キャリアを積み重ねるための政策提言を目指した研究を継続中である。

研究成果の概要(英文)：We studied about female long time care workers. The object of our study was to make policy proposals to promote female workforce participation in long-term care worker market. We executed a questionnaire to care workers and nurses utilizing Internet. Following the survey results, we found that not only the job discription but also marriage status and career choice influence eagerness to work. We should take into consideration the other detailed charastaristics such as number of chirdren those are important factors for motivations to work. We continue our research to raise spontaneous motivations of female worker in long-term care worker market and that leads to development their career.

研究分野：計量経済学

キーワード：介護労働 女性労働 計量経済学

1. 研究開始当初の背景

介護労働市場においては、その高い離職率が長年問題となっており、離職要因に関する研究が多く蓄積されている。一方、介護労働に関しては短時間勤務が可能であるなど、とくに既婚女性にとって働きやすい職種であるという一面も有り、実際介護労働市場においては女性労働者が大きな割合(約7割)を占めている。さらに、未経験者であっても募集・採用があるため、専業主婦にとっても比較的参入しやすい職種であると言える。

しかしながら、女性労働者の割合が大きいとは言え、女性が出産・育児の主体であることや、家事全般についてもその負担の大部分を担っていることに大きな変化はない。そのため、女性労働者はそのライフ・ステージに沿って働き方を変えざるを得ない状況であり、この問題は介護労働者にも当然当てはまる。

介護労働市場は、今後も女性労働者の活躍がさらに期待される労働市場であることから、その労働環境の整備は喫緊の課題である。

2. 研究の目的

介護労働市場の中でも、特に既婚女性に着目し、女性の労働力化の促進に向けた提言を行うことを目的とする。

まず、女性介護労働者の継続就業に対して障害となっている要因を明らかにする。具体的には、女性労働者の仕事や家庭生活における不安・不満について詳細に調べ、婚姻状態や年齢、学歴などの様々な属性との関係性を分析する。介護労働市場において女性が働く際の動機や継続就業を妨げている要因を明らかにし、女性労働者の内発的動機を高めるための政策提言を行う。

また、研究代表者と研究分担者は、これまでに女性労働に関する共同研究を行っており、特に専業主婦に着目した分析も行っている。介護労働市場における潜在的労働力と期待される専業主婦の労働力化についても、就業意識の観点から研究を行う。

3. 研究の方法

介護労働に関するマイクロデータとして、介護労働安定センターが実施している介護労働実態調査の個票を利用した。さらに、より詳細な労働者の属性を把握するために、独自のアンケート調査を行った。

アンケート調査に基づく分析(郵送による予備的調査)

まず兵庫県内の女性介護労働者に対してアンケート調査を実施した。県内の福祉施設で働く女性労働者に対して、郵送でアンケート調査を行い、195の有効回答を得ることができた。調査内容については、労働者の詳細な属性、及び働くことに関する意識に関する設問項目を準備した。回答については選択式とし、「仕事における喜び」のみ記述式回答とした。ここでは、研究目的に関して賛同を

得られた施設のみを調査対象としたこと、さらに回答者の選択方法に関しては各施設によって異なる可能性があることなど、得られた調査結果についてはサンプリングバイアスの問題が生じていることは否めない。調査結果の分析の際には、その点も注意深く考慮した。

アンケート調査に基づく分析(インターネットを利用した大規模調査)

郵送によるアンケート調査の結果を踏まえ、これまでに調査されていない女性介護労働者の詳細な属性(子供の有無、子供の年齢、親との同居の有無など)も考慮したアンケート調査を行った。調査会社に委託し、インターネットによる大規模調査を行った。介護労働の特殊性をより明確にするため、介護労働と同じく女性の割合が高い看護職も調査対象とした。さらに、ワークライフバランスの観点も考慮して介護・看護労働市場で働く男性労働者も含め、調査対象者は、医療業(看護師・准看護師)と福祉関連業(看護師・准看護師を含む)に携わる労働者とした。調査は平成29年に行い、委託会社の提携パネルも利用し、約1500の回答を得ることが出来た。性別に関する回答数の内訳は、女性が約6割、男性が約4割であり、職種に関しては、医療業が1/3、福祉関連業が2/3となった。また、十分なサンプル数を確保するため、対象地域は全国としており、地域特性をコントロールする必要性が生じた。

上記アンケート調査に加え、研究分担者と研究代表者が行った仕事と子育てに関するインターネット調査(課題番号15K03519)の個票も用いた。ここでは、関西圏に在住する小学生以下の子供を持つ24~49歳の女性を調査対象とし、介護労働に関する質問項目を設定した。無業者調査では2869人、有業社保労者では2483人からの回答を得た。有業者については、介護職に就く女性(97人)とそれ以外の有業女性(2386人)を区分し、無業者については就業する場合の希望職種に介護職を挙げているかどうかで回答を区分し(介護職希望者85人、介護職非希望者2410人、非就業希望者374人)、分析を行った。

4. 研究成果

「関西圏女性の仕事と子育てに関する意識調査(無業者)介護職希望者の特徴」、および、「関西圏女性の仕事と子育てに関する意識調査(有業者)介護職希望者の特徴」では、以下の点が明らかになった。

まず、無業者に関しては、希望する雇用形態について介護職希望者と非介護職希望者で違いが生じた。正社員で働きたい、いずれは正社員で働きたいと回答した割合が、介護職希望者の方が高く、職種により就業意識が異なることが示唆された。次に、有業者については、介護職に就く女性とそれ以外の有業女性では、今後の仕事に関する希望について、

違いが見られた。介護職に就く女性は、それ以外の有業女性よりも、職種については変えたくないと思っている割合が高く、ここでも職種の特殊性による影響が見られた。

また、職種に関わらず、子供のいる女性に関しては、出産後の就業行動が出産前に形成されていた就業意識によって影響を受けることが明らかになった。さらに、女性自身が経済力をもつ必要性を認識することや仕事に関する良い経験が、育児期の就業意識に影響を与えることが明らかになった。

平成 27 年度には、兵庫県内の介護・福祉施設で働く女性介護労働者に対して、その属性や、仕事・家庭生活に関する不安・不満についてアンケート調査を行った。調査結果は、「兵庫県内における女性介護労働者の意識調査 集計結果：雇用形態による比較」（2016）としてまとめた。そこでは、仕事に関する体力的不安を抱えている一方で、労働力の慢性的供給不足により仕事を失うことはないという安心感を得ているという、介護労働者の特性が明らかになった。働いている理由としては経済的理由が多数を占め、「女性も経済力を持つべき」と認識している労働者も多い。また、仕事を選んだ理由として「働きがい」を挙げる労働者が多い一方で、体力的・精神的負担に不安を感じている割合が非常に高く、このような不安を軽減するための施策が早急に必要であるといえる。得られた回答に関しては、施設の選択や回答者の選択において、サンプルセレクションバイアスが生じたことは否めないが、地域性はコントロールできており、大規模インターネット調査を行うにあたり、有益な情報を得ることができた。さらに、仕事に関する喜びについて、記述式の回答を多く得られており、これらに関しては現在テキストマイニングによる分析を検討している。

「看護師および介護労働者に関する調査」（2017）では、平成 27 年度に行ったインターネットによるオンライン調査の回答の集計を行った。ここでは、調査対象を、医療業（看護師・准看護師：以下、看護職）と福祉関連業（看護師・准看護師を含む：以下、介護職）に携わる男女労働者とし、職種・性別による影響を考慮した調査を行った。調査結果より明らかになったのは以下の点である。

まず、働くことに関する意識に着目すると、性別、及び職種による意識の違いが明らかになった。女性の場合、看護職と介護職を比較すると、働くことが楽しいと感じている割合は看護職の方がかなり高い。仕事をしていて良かったと思うことがあると回答した割合も看護職の方がかなり高く、看護職においては働くことに対して前向きな意識を持っている労働者の割合が高いと言える。男性の場合は、働くことに関する前向きな意識について、職種による違いは見られなかった。しか

し、「必要がなければ働きたくない」と感じている割合は看護職の方がかなり高く、職種による就業意識の違いは存在していると思われる。

次に、経済状況に関する意識に着目すると、ここでも性別、及び職種による意識の違いが見られた。介護労働においては、その賃金の低さが重要な問題となっているが、特に女性の場合、職種による経済状況に関する不安の違いが見られた。働く理由として「もともと働くつもりだったから」と回答した女性労働者のうち、「働きたくないが働かないと十分な収入がなくなる」と感じている割合は介護職において高くなっている。一方、「女性も経済力を持つ必要がある」や「働くことが好き」を理由に挙げた回答者の割合は看護職の方が高い。ここでも、働くことに対する前向きな意識を持っている割合は看護職の方が高いと考えられ、女性介護職従事者は、経済的リスクの軽減のために就業するを選択しているものと思われる。男性に関しては、職種によるこのような違いは見られず、経済状況に対する意識において性別による違いが存在すると予測される。

集計結果より、働くことに対する前向きな意識に関して、特に女性労働者においてはその職種による違いが存在することが示唆された。そこで、女性労働者の「働くことは楽しい」という意識に着目し、その要因に関する分析を行った。分析結果は、「医療・福祉現場における女性の就業意識に関する考察」（2017）として公表している。

まず、婚姻状態についてみると、介護職・看護職ともに既婚者の方が「働くことは楽しい」と感じている割合が高い。婚姻状態によって経済的リスクへの意識が異なることに影響されているとも考えられる。しかし、収入満足度に着目すると、看護職においては「働くことは楽しい」という気持ちと収入満足度の間には関連が見られるが、介護職においてはそのような関係性が見られない。介護職では、もともと収入に満足している人が少ないことからこのような違いが生じていると考えられるが、この点を考慮すると、「働くことは楽しい」という気持ちにおける婚姻状態による違いは、一概に経済的リスクへの意識の違いによるものとは言えない。

次に仕事上の精神的負担に着目する。看護職では、精神的負担が大きいと「働くことは楽しい」という気持ちが減退する傾向がみられるが、介護職ではこのような傾向は見られない。また、既婚看護職の場合は、精神的負担が大きい場合であっても「働くことは楽しい」と感じている割合は高く、看護職に関しては婚姻状態による影響が大きい。

また、介護職よりも看護職の方が強い意志を持って仕事を選択している。特に、未婚介護職では、「他に良い仕事がない」といった消極的理由により介護職を選択している割

合が高い。

これら結果より、「働くことは楽しい」といった仕事に対する前向きな意識に対しては、仕事内容の特性や婚姻状態だけでなく、職業を選ぶ段階での意識の違いが影響している可能性が示唆された。介護職と看護職では、職業を選択するタイミングや入職経路が大きく異なる。特に、どのような時期に職業を選択するのかによって、得られる情報量にも違いがあると考えられ、職業選択における意識の違いはこの点にも起因するものと思われる。

本研究において、介護労働市場における既婚女性の労働力化に向けた政策提言を目的とした。女性介護労働者の就業について、特にその就業意識に着目した研究を行い、仕事の内容に加えて、その婚姻状態や家庭内での役割分担が影響を与えることが示唆された。これらについて、現在は子供の数や年齢、配偶者の就業意識といった詳細な属性や地域特性を考慮した研究を継続している。さらに、就業継続の意思に大きく影響を与えると思われる「働くことは楽しい」という意識に関しては、看護職との比較を行うことで職業選択のタイミングにおける情報量の違いが影響することが示唆された。

研究代表者、及び研究代表者のこれまでの研究により、無業の既婚女性については「子どもが多い専業主婦ほど就業意欲が高い」こと、「学歴が高くなるほど再就職するつもりだった人の割合が高い」ことが明らかになっている(「専業主婦の就業意識に関する考察」(2013))。これらの点も踏まえ、女性の就業意識に影響を与える要因を明らかにすることで、介護労働市場における女性労働者の内発的動機を高め、そのキャリアを積み重ねるための政策提言を目指した研究を今後も継続する。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

車井浩子、横山由紀子、看護師および介護労働者に関する調査、兵庫県立大学政策科学研究資料、査読無、No.277、2017、pp1-40。

車井浩子、横山由紀子、医療・福祉現場における女性の就業意識に関する考察、商大論集、査読無、第69巻、2017、pp45-60。

車井浩子、横山由紀子、関西圏女性の仕事と子育てに関する意識調査(無業者)介護職希望者の特徴、兵庫県立大学政策科学研究資料、査読無、No.268、2015、pp1-51。

車井浩子、横山由紀子、関西圏女性の仕事と子育てに関する意識調査(有業者)介護職希望者の特徴、兵庫県立大学政策科学研究資料、査読無、No.269、2015、pp1-43。

車井浩子、横山由紀子、吉田和夫、介護労働市場における既婚女性の労働力促進に関する計量経済学的研究、地域ケアリング、査読無、第18巻、2016

車井浩子、横山由紀子、兵庫県内における女性介護労働者の意識調査、兵庫県立大学政策科学研究資料、査読無、No.274、2016
pp1-35。

〔雑誌論文〕(計 6件)

〔学会発表〕(計 0件)

〔図書〕(計 0件)

〔産業財産権〕

出願状況(計 0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況(計 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

6. 研究組織

(1)研究代表者
車井 浩子 (KURUMAI HIROKO)
兵庫県立大学・経営学部・教授
研究者番号：70275296

(2)研究分担者
横山 由紀子 (YOKOYAMA YUKIKO)
兵庫県立大学・経営学部・教授
研究者番号：80336825

(3)連携研究者
()

研究者番号：
(4)研究協力者
()